

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年7月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674200060
法人名	社会福祉法人 伸志会
事業所名	グループホームのぞみ (A棟)
所在地	鹿児島県薩摩川内市祁答院町藺牟田2013番地6 (電話) 0996-31-8101
自己評価作成日	平成30年5月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・近くには藺牟田池のある自然豊かな環境にあります。温泉があり、毎日ゆったりと温泉に浸かりのんびりと生活されています。一人ひとりのペースで、出来る範囲で自分のことはされながら、持てる力を発揮し、家事等をスタッフと一緒に、家庭的な雰囲気ですべて生活されています。

・小さな畑があり、野菜作りをしています。現在は高齢化も進み、足腰が弱くならず、畑に入ることでできる方がほとんどありませんが、野菜を植える様子を見たり、収穫を見たりして頂いています。季節の花はプランターに植えて頂いています。

・楽しみである食事に関しては、管理栄養士による献立より管理されています。季節にこだわり行事食を多く取り入れ、また、病気のための食事も、管理栄養士に相談しながら提供してしています。

・敷地内にクリニック、認知症デイサービス、隣接して同法人の特別養護老人ホーム等があり、医療福祉の連携を取りながら、安心して生活できる環境があり、災害時の協力体制もできています。

・2ヶ月毎に「のぞみ新聞」を発行し、のぞみでの生活の様子をご家族にはもちろん、地域の皆様にも見て頂けるように、地域のコミュニティセンター、市役所支所、特養、支援センターにも置かせてもらい、情報発信を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○事業所独自の理念に加え、毎年、職員全員でキャッチフレーズを考え、理念とともに掲示し、毎朝唱和することで、日々の支援につながるよう努力されている。本年度のキャッチフレーズは「今日を笑い、あしたを生きる」とし、家庭的な雰囲気の中で、笑顔で過ごせる環境にしたいと考え、積極的に会話をしたり、楽しめる活動の工夫につなげている。

○住宅地から離れた場所にあるため、近所付き合いのような交流はないが、同敷地内にある医療機関やデイサービスとの交流や、少し離れた場所に同法人の運営する特別養護老人ホームもあるため、運動会などの行事の際や災害訓練での連携を図ることができている。また、中学生や高校生の実習、サマーボランティアの受け入れ等も積極的に行い交流している。

○年2回の災害訓練には、地域住民や消防団員の参加が得られ、隣接事業所との協力体制も整えられている。また、通報訓練を毎月実施することで、手順と対応についてを繰り返し確認している。備蓄については、米や水、レトルト食品等を約3日分用意するとともに、備品についても、懐中電灯や全員分の防災頭巾、AEDを備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を作っており、全スタッフが共有するよう、申し送り時に理念を復唱し、常に意識して仕事をしている。毎年スタッフでキャッチフレーズを考えている。	理念の他に、毎年職員全員でキャッチフレーズを考え、本年度は「今日を笑い、あしたを生きる」を掲げ、唱和や目につきやすい場所に掲示し意識付けを図っている。理念にある「尊重」を大切に考えながら、「自由」な暮らしが送れるよう、日々努力され支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特養の行事へ参加したり、ボランティアの訪問、クリニックの受診時近隣者との交流は時々あるが、地域の一員として、日常的な交流はしていない。	法人主催の夏祭りや運動会に地域住民の参加が得られ、中学生の福祉体験や高校生の福祉実習、小中高生のサマーボランティア等、積極的に受け入れ交流している。また、地域の文化祭や酒蔵の蔵開きに出かけるなど、地域住民との交流の機会を作る努力もされている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の福祉体験学習、高校生の介護実習の受け入れをし、支援方法を教えている。地域の方々に向けては、行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進委員会を行っており、利用者様の様子。サービス内容等を報告し、また、助言を頂いたりして、サービス向上に活かしている。	家族や地域住民、消防署員、行政職員等が参加する会議では、事業所の活動内容や入居者情報等の説明がなされるほか、行政職員から介護保険制度についてや食中毒に対する注意喚起、また、消防署員からは防災に関する意見等、多くの議題が話し合われており、有意義な会議となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進委員会に市の担当者も参加して下さり、現状の報告をし、意見を頂いている。	行政職員とは、運営推進会議で顔を合わせるほか、相談事がある時に出向いたり、電話で意見を頂いている。また、年2回行政主催の「連絡会」による研修会に参加するなど、事業所の実情を伝える機会は多く、連絡や連携を密に取ることで、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、現在徘徊の方がいらっしゃり、西口のドアの施錠を日中もしており、また、靴に鈴をつけたりと家族の理解のもと、安全面を優先に行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、事業所独自のマニュアルを基に、3ヵ月ごとに研修会を開催している。「待つて」など言葉による拘束については、「○○だから、待つて下さい」という言葉に置き換えたり、方言についても、人格の尊重に配慮した言葉を選ぶなど、気を配り対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議等で話し合い、虐待へとつながらないように十分心がけている。言葉の虐待が時々見られる。スタッフ同士で注意をしているがゼロにはならない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し、理解に努めているが、制度にについて、まだしっかりと理解できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に、本人、家族に面会し話しをし、入居時に説明を行い、理解、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話等でご家族に意見や要望を聞いたり、利用者ともお風呂や居室などで心配ごと等を聞いている。面会簿に要望や意見を書いてもらっている。	利用者からは、日頃の会話や様子から意見や要望を汲み取るとともに、家族からは家族会や面会時等に意見を尋ねるようにしている。また、家族には定期的ののぞみ新聞を郵送して近況を報告することで、感想や意見、要望を出しやすいよう工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議やケア会議等で、意見や提案をし、話し合いをしている。会議以外でも、その都度意見を出し合っている。	管理者は日頃から職員の意見を聞くようにしており、特に新人職員については、体調の変化に注意し、こまめに声をかけるようにしている。また、休みの希望や研修への参加、資格取得の際の勤務調整について柔軟に対応するなど働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談で話をしており、やりがいのある方向へと、各自が向上心を持って働けるよう改善したり、環境整備に努めて下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回は、施設内研修もあり、また、法人外の研修、新人研修などにも行かせてもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>昨年、勉強会と交流会を合わせて行ったことは1回あったが、それ以降はなく、なかなか同業者との交流する機会がない。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人様と面会し、関係作りの第一歩としている。困ったことや要望等を聞き、本人の不安を一つ一つ取り除けるようにして、信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には、ご家族の方にも話を聞いて、要望や不安をしっかりと受け止めるように努めている。面会時にグループホームでの様子を見て頂き、他に「こうしてほしい」と言う事があれば、聞き応えていけるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族の方の両方の要望をしっかりと把握して、グループホームでの生活を安心して心地良いと感じていただけるよう、その時その時の心の変化に気づき、その方に合ったサービス支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗洗い、洗濯物干し、たたみ等、本人のできることを、声かけし、手伝っていただきながら、できるだけ、施設ではなく、家庭のような雰囲気と共に過ごし支え合えるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、家族会、運動会、夏祭り等に参加され、本人と家族の絆を大切にしている。2ヶ月に一度GHの様子を手紙と新聞で伝えている。いつでも面会に来て下さるように声かけしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出等で関係継続の支援を行っている。ご家族、親戚、お友達の方など、月1回程度は面会へ来られるが、中にはほとんど誰も面会へ来られない方もいらっしゃる。	これまでの人間関係や馴染みの場所を入居前の担当ケアマネージャーや入院先の相談員等からの情報も参考にしながら把握している。家族と話をしてほしい利用者には、家族の方から定期的に電話をもらうようにすることで、気持ちが落ち着き、穏やかに過ごせることにつながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルは時々みられる。利用者様の性格を把握し、食堂の座る場所やソファの位置などを考え、一人ひとりが孤立せずまた、トラブルも起きないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等で本人、家族に逢う機会はあり、あいさつ程度は交わしているが、相談や支援にまではつながっていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段のコミュニケーションの中で、一人ひとりの暮らし方の希望を聞いている。なかなか本音を言われなかったり、また、困難な方の場合は本人本意に検討している。	利用者と多く関わり、積極的に会話をすることで、本人の思いや意見を汲み取るよう努めている。把握した内容は職員が自由に記入できる連絡帳に記録し、全員が目を通しており、重要な項目については、申し送り時に報告し情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで、その方がどのように過ごされてこられたかをサマリー等で情報を頂き、また本人から聞き取りをして、これまでの暮らしを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日、心身状態は変わるので毎朝、バイタルチェックを行い、会話や顔色、行動などから体調を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様とは日常的に、ご家族様とは面会時や電話などでそれぞれの意見を聞いている。また、毎月1回、スタッフ一人ひとりが利用者のケアのあり方を見直し、ケア会議で話し合い検討して介護計画を作成している。ケア会議以外でもその時の必要な話し合いを行っている。	生活記録表にケアプランを記載することで、毎日プランの実施状況を確認できるようになっており、これらを参考に毎月カンファレンスを実施している。また、半年毎のモニタリングや主治医の意見もプランに組み込むことで本人本位の暮らしの実現に向けた支援がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子は個人録に記録している。職員間で情報を共有し、話し合いを持って、実践や介護計画を見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外の病院受診は基本的に家族にお願いしているが遠方だったり、都合が付けられない家族に対しては、スタッフが受診に行く等している。また、必要な物の購入もスタッフで行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方が来られ、唄や体操、折り紙等をして下さったり、また地域の文化祭や近所の酒蔵のイベントにお連れしたりし、暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が同敷地内にあるクリニックへ変更して下さい、月2回の定期受診、体調不良時には、早めに受診し、適切な治療を早期に受けられるようにしている。	母体医療機関が隣接しているため、日常的に情報交換が行いやすく、緊急時にはすぐに受診できるため、本人、家族の安心に結びついている。受診時に把握した情報は、連絡帳や医療関係記録簿に記録し、申し送り時や職員会議で報告、確認している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自施設には看護師がいないため、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきをかかりつけ医のDr. や看護師にすぐに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院があり、安心して治療を受けることができるよう、また、早期退院が出来るように、病院関係者と情報交換や相談を行っている。入院がある時には、できるだけ面会に行き、本人様に逢い、同時に看護師等に状態を聞いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設では、ターミナルケアは行っていないが重度化したとき、GHでの生活が困難になってきた時は、家族やかかりつけ医と話し合いを行い、特養等と連携を取り、入所への支援を行っている。	ターミナルケアは行っていないが、重度化しても適切に対応していきたいと考えているため、研修会に参加しており、知識や技術面のスキルアップを図っている。また、可能な限り、本人、家族の望む暮らしを支援できるよう、主治医を含む関係者全員で話し合いを行い、最善の方法で支援すべく日々連携を図っている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はすぐに管理者、責任者へ連絡し、初期の対応をしている。AED講習会にも参加し、学んでいるが実践できるかどうかは不安である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間、夜間の想定で火災避難訓練は行っている。また、月1回の通報訓練も行っている。隣接するクリニック、認知症デイサービス、特養等の協力体制もある。夜間想定の際には、地域の消防団、近隣のご家族にも参加して頂いている。	火災訓練には、地域住民や消防団員の協力も得られ実施することができた。また、通報訓練は毎月実施するほか、水害訓練についても、同法人施設と協力し合い実施している。備蓄は米や飲料水、レトルト食品等を約3日分備えるとともに、備品として、各居室にヘルメットを準備できないか検討しているところである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や暮らしてきた環境が違うので、その方に合わせた言葉使い、気持ちを傷つけないように敬語で優しい言葉使いを心がけている。	人格の尊重やプライバシーに関する勉強会を法人の年間研修に組み込み、定期的実施している。トイレ誘導時は、さり気なく声をかけたり、汚染時には、他の利用者に気付かれないよう個室で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝の洋服の着替えは、本人の好きな服を選んで頂く。レクリエーションも、いくつかのものを準備し、その中から選んで頂く、クッキングデイを設け夕食のメニューを決めて頂く等自己決定が出来る支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせずできる事を出来る時に楽しくして頂き、ゆったりと自分のペースで一日を過ごして頂けたらと心がけているが、スタッフの都合になってしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は行事等に合わせ、定期的の実施し行事や外出時のおしゃれの支援をし、また、お化粧品やマニキュア等の支援もしている。トイレ後、ふくが乱れている方は、声かけしたり、介助にて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの時の野菜切り、下処理、食後の茶碗洗い、台拭き、お盆拭き、片付け等個々の好み、力量に合わせスタッフと一緒にしている。月2回夕食のメニューを決めて頂き、買い物へ一緒に行くクッキングデイを設けている。	栄養士の立てた献立を、調理の下ごしらえや配膳の手伝いを利用者と一緒に行い、職員も同じメニューを会話を楽しみながら食べている。食べたいもののリクエストを尋ねたり、季節の行事食を手作りにこだわり提供するなど、食べる楽しみを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のメニューに添った調理をし、栄養バランスの確保が出来るよう、一人ひとりの食事量を把握し、カロリー控えめの方は別の食材を代用したり、水分制限のある方は水分量を測り提供している。状態に合わせてミキサー食、刻み食を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態や力量に合わせた口腔ケアを見守り介助しながら支援している。モアブラシを使用しての舌洗浄や義歯洗浄の使用もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力を活かし、排泄の支援をしている。チェック表で排泄パターンの把握をし、失敗のないよう、早めの声かけ、誘導を行っている。リハビリパンツの使用の方も多くなってこられたが、昼間だけは綿パンツに尿とりパット使用で過ごされるよう支援している。	排泄チェック表を参考に、個々の排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導につなげている。入居時はリハビリパンツを履いていた方も、徐々に布パンツに移行していく努力をしたり、時間帯に応じて尿取りパットの容量を変えるなど、排泄用具に頼らない努力をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、10時のヨーグルト摂取で予防に努めている。また、レクリエーション時は体操や室内散歩を取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。排便管理をし、薬服用で調整を行っている方もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本一日おきに入浴して頂いている。午前中に入浴だが、体調や気分をみて、午後から入浴していただくこともある。温泉を引いてあるので、湯船にゆっくりと浸かって、入浴を楽しまれている。	おおよその入浴日は決められているが、シャワー浴や足浴、汚染時等いつでも入浴は可能である。冬至にゆず湯を楽しむ機会も作っている。入浴を拒まれた場合は、声かけの内容や時間、職員を変えるなど工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、昼寝をしたい方は居室で休まれ、夜も自分の好きな時間に休まれている。食後30分程度はソファで過ごして頂いてから休んで頂くようにしている。常夜灯等を利用して安心して休める雰囲気づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳等で確認し、新しい薬が処方されたら薬の目的等も調べているが、なかなか全ての薬の目的、副作用をしっかりと理解できていない。誤薬がないよう、2回、3回と確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かして、お茶碗洗いやお盆拭き、台拭き洗濯物たたみ等して頂いている。また、本読み塗り絵等楽しみ事も一人ひとりに合った支援をし、気分転換が出来るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出は難しいが、季節の花見に行ったり、クッキングデイで買い物に行ったりされている。お墓参りを希望されたら、家族に協力してもらい、希望に添えるよう支援している。	加齢による体力低下もあり、外出の機会は少なくなってきているが、桜やあじさい等、季節の花見に出かけたり、クッキングデイによる買い物やドライブ等に出かけている。また、同法人主催の行事に参加したり、2年に1度家族の協力をもらい遠足にも出かけている。そのほか、日常的に散歩をするなど、気分転換を図るようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なかなかお金の所持は難しく、事務所で預かりしているが、買い物へ行かれる時やお茶飲みに行かれた時は自分で支払いが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望があれば、いつでも家族の方や大切な人に、また贈り物のお礼等の電話をして頂いている。暑中見舞いや年賀状は毎年書いて頂けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は、利用者様同士の相性や身体面に合わせて座る位置を決めている。季節感のある花を植えたり、生けたりし、四季の移り変わりが分かるようにしている。また、壁面飾りは季節感のあるものを毎月替え、楽しんでいただいている。温度や湿度には気をつけ、冷暖房の調整はこまめに行っている。	リビングは明るく開放的で、窓から見える景色からは、四季を感じることができる。台所は対面式のキッチンになっているため、利用者の様子を見守りながら、食事の準備が行える造りになっている。利用者がわかりやすいようトイレの案内を掲示したり、利用しやすいようトイレの開口部を広げる工事も実施した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで塗り絵をする、本や新聞を読む、気の合う者同士でソファでお話をする、TVを見る等、一人ひとりのペースで過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や夜具、また写真等を持って来られたり、GHで作ったカレンダーや作品等を飾られたりされている。また、本人の変化により、その都度ベッドや家具の位置を工夫している。	エアコンやクローゼット、ベッド、天袋が備え付けられ、全室、畳仕様になっている。居室入口に個々の写真が掲示してあるため、部屋を間違える心配も少ない。テレビや写真など、自宅から馴染みの品を持ち込み、居心地よく過ごせる環境になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレやお風呂には名前を書いたり、居室も分かるように名札をしたり、目印等を付けている。また、廊下、トイレ、お風呂場にも手すりが設置しており、安全な環境作りをし、自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない